

茨木市立葦原小学校 全国学力・学習状況調査分析結果

令和3年10月作成

【今年度の結果と取組みについて】

○●国語●○

(領域ごと)

- | | |
|-------------------|---------------|
| ① 言葉の特徴や使い方に関する事項 | やや課題が残る結果であった |
| ② A話すこと・聞くこと | やや課題が残る結果であった |
| ③ B書くこと | 課題が残る結果であった |
| ④ C読むこと | やや課題が残る結果であった |

(問題形式)

- | | |
|-------|---------------|
| ① 選択式 | やや課題が残る結果であった |
| ② 短答式 | やや課題が残る結果であった |
| ③ 記述式 | 課題が残る結果であった |

(無解答率)

やや課題が残る結果であった

(その他)

設問 2二の正答率が最も高かった。

設問 2四の正答率が最も低かった。

設問 1一～三および2一と2二の無解答率が最も低かった。

設問 3三(1)ウの無解答率が最も高かった。

分析

・設問が進むにつれて、無解答率が高くなっている。

→前半の設問に時間をかけすぎてしまい、時間が足りなくなってしまったことが要因の一つと考えられる。

・漢字の書き取りや主語と述語・修飾語と被修飾語の関係を捉える設問に課題が見られる。

→日常的に様々な言葉や文章にふれたり、漢字で書き表したりする経験が少ないことが要因の一つと考えられる。

・特に文章を読んで要約したり、考えを工夫して文章で伝えたりするような文章記述で解答する設問の正答率が全国と比べ、かなり下回っている。

→問題文の中から適切なキーワードを読み取る力や定められた文字数でまとめる力に課題があると考えられる。

○●算数●○

(領域ごと)

- | | |
|-----------|-------------|
| ① A数と計算 | 良好な結果であった |
| ② B図形 | 概ね良好な結果であった |
| ③ C測定 | 概ね良好な結果であった |
| ④ C変化と関係 | 概ね良好な結果であった |
| ⑤ Dデータの活用 | 概ね良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|-------|-------------|
| ① 選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ② 短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③ 記述式 | 概ね良好な結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

設問 3(1)の正答率が最も高かった。
設問 3(4)の正答率が最も低かった。
設問 1(5)および2(1)の無解答率が最も低かった。
設問 3(4)の無解答率が最も高かった。

分析

- ・各領域、概ね良好な結果となったが、測定領域はわずかに低い結果となった。
- ・設問3のような棒グラフを読み取る基礎的な設問(1)(2)はよくできているが、(3)～(5)のような設問文が長い設問になると、正答率が少し下がっている。
→設問文が長くなっていることで、何を問われているのかを読み取りづらかったと考えられる。
- ・全国で無解答率が高い設問3(4)や4(3)は、本校では無解答率が低くなっている。
→授業や宿題の中で他者に考えを説明する経験を多く積んでいるからだと考えられる。
- ・設問2(3)の平行四辺形の面積の求め方を答える設問では、全国の正答率を大きく上回っている。
→問題解決学習の授業で公式を学ぶのではなく、多様な考え方を練り上げて概念を生み出すことで、思考力が積みあがってきているからだと考えられる。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

- ・平均正答率は年々全国平均に近づいており、算数では全国平均を上回るようになった。
- ・無解答率の全国比については、H29年度まで年々上昇傾向であったが、H30年度より減少傾向である。前回H31年度と比べると上昇しているが、算数については全国より低い。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

- ・学力低位層の割合は、全国を上回っているが、年々減少傾向にある。
- ・学力高位層の割合は、全国を下回っているが、年々上昇傾向である。
- ・エンパワー層の割合は、全国を上回っているが、減少傾向である。

○●取組み●○

<学力保障部>

- ・算数科での問題解決学習の研究・実践
- ・休み時間を活用した学習支援教室「タケノコ教室」の設定。(今年度はコロナ禍のため休止中)
- ・授業の流れのスタンダード化。
- ・南中ブロック共通実践(南中スタンダード)の実践。
- ・勉強についてのアンケートの実施・分析。
- ・ICT機器の積極的な活用。
- ・自学自習力の育成のため、自主勉強ノートに取り組む。
- ・多層指導モデルMIM読みのアセスメント・指導パッケージの実践。(1年生)
- ・3・4年生の算数での少人数学習や5・6年生の算数でのTT学習の実施。

<支援教育部>

- ・ユニバーサルデザイン授業研修。
- ・授業における合理的配慮の推進
- ・ひらがな聴写テスト(1年生)カタカナ聴写テスト(2年生)の分析。

<集団づくり部>

- ・一斉人権学習の取り組みを通して、自分の思いを友だちに伝えたり、友だちの思いを受け止めたりする力の育成。

<その他>

- ・自分自身や他者との関係性を考え、コミュニケーションを通して自己の変容につなげる道徳の実践。
- ・外国語の時間のコミュニケーションを通して、友だちに自分のことを知ってもらったり友だちのことを知ったりすることができる資質・能力を育む実践。
- ・読書週間や図書室の整備を通して、読書に親しむ心の育成。
- ・体育授業の実技指導研修。
- ・学習環境や教具の整備。
- ・登校しづらい児童への別室学習。